

記者発表資料

件名

安養寺 (あんようじ) 遺跡で新たにみつかった古代寺院について

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、滋賀県南部土木事務所および滋賀県教育委員会からの依頼により安養寺入町線補助道路整備工事に伴う発掘調査を平成 25 年度から実施しています。

今回、安養寺遺跡の発掘調査を平成 25 年 11 月から平成 26 年 6 月にかけて実施し、白鳳期から奈良期（約 1300 年前）にかけての寺院が新たに確認されました。

県内では、これまで当該期の寺院は 70 カ所ほど知られていますが、新たにみつかることは非常にまれで、しかも近接して存在が知られている「安養寺廃寺」とは別の寺院跡と考えられます。古代寺院のあり方を示唆する貴重な出土例と考えられます。

なお、一般の方々を対象とした当該資料の展示を下記のとおり開催します。

記

- (1) 遺 跡 名：安養寺 (あんようじ) 遺跡
- (2) 所 在 地：近江八幡市安養寺町
- (3) 調査期間：平成 25 年(2013 年)11 月～平成 26 年(2014 年)6 月
- (4) 調査面積：約 3,470 m²
- (5) 調査主体：滋賀県教育委員会
- (6) 調査機関：公益財団法人滋賀県文化財保護協会
- (7) 特別展示
 - ①開催日時：平成 26 年(2014 年)8 月 3 日(日)
整理調査成果中間報告会「あの遺跡は今！Part19」で公開（午前 9 時から）
 - ②開催場所：滋賀県立安土城考古博物館 調査整理課 電話 0748-46-4861
 - ③交通機関：JR 琵琶湖線 安土駅下車 北へ徒歩 25 分
名神高速道路「竜王 IC」または「八日市 IC」より車で 20 分
国道 8 号線西生来交差点を經由 加賀団地口交差点を右折
 - ④そ の 他：調査員が直接解説しながら、出土した遺物を間近にご覧いただきます（無料）。博物館の常設展・企画展は、入館料が必要です。

1. 調査の経緯

安養寺遺跡は古代の遺物散布地として周知されている埋蔵文化財包蔵地です。安養寺入町線補助道路整備工事に伴う発掘調査を、平成 25 年度調査（対象面積 1,850 m²）は平成 25 年 11 月 22 日～平成 26 年 3 月 20 日まで実施し、平成 26 年度調査（対象面積 1,800 m²）は平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 6 月 24 日まで実施いたしました。

2. 遺跡周辺の概要

安養寺遺跡が所在する近江八幡市安養寺町に、古代寺院跡が存在していたことは、大正 11 年刊行の『蒲生郡志』に記載されており、早くから知られていました。今回の発掘調査地の南東約 800 m には、安養寺廃寺遺跡として周知されている白鳳から奈良時代にかけての古代寺院が所在しており、周辺部の発掘調査によって当該期の軒丸瓦などの遺物が確認されています。

3. 調査の成果

今回の発掘調査では、白鳳～奈良時代の古代寺院に関連するとみられる建物や柵・溝、鎌倉時代頃の井戸や柱穴、江戸時代頃の水路などの遺構が見つかり、軒丸瓦・軒平瓦を含む大量の瓦や須恵器・土師器・陶磁器などの土器、礎石などが出土しました。

古代寺院に関連する遺構として、柵や掘立柱建物 1 棟、溝 1 条などの遺構が確認されました。柵は東西方向に 20m 以上延びるものとそれと組み合っってその内部を細分するように南北に延びる柵があります。掘立柱建物は南北に延びる柵の延長線上に建物の方向を揃えて建てられた桁行 2 間以上・梁間 3 間の建物です。これらは礎石を用いず建てられていることから、寺院内部の付属施設と想定されます。

溝は推定幅 3m、長さ 16m 以上を測る南北方向の溝で、埋土から大量の瓦が出土しました。その中には、完全な形に近い軒丸瓦や軒平瓦、小破片のため判断はし難いものの、厚みや付けられた装飾から鴟尾ないし鬼瓦とみられるものなどが含まれています。また、溝を壊して造られた近世の用水池からは、円形の柱座を造り出した 1 辺約 0.8m、高さ約 0.5m の礎石が 1 石出土しました。

柵や溝は、そこから多量の瓦が出土することから古代寺院に伴う区画施設と考えられ、鴟尾ないし鬼瓦が出土した点や、瓦葺き建物に用いられるような大型の礎石が出土した点をふまえると、この付近に塔や金堂など、伽藍の中心施設があった可能性が高いことが判りました。

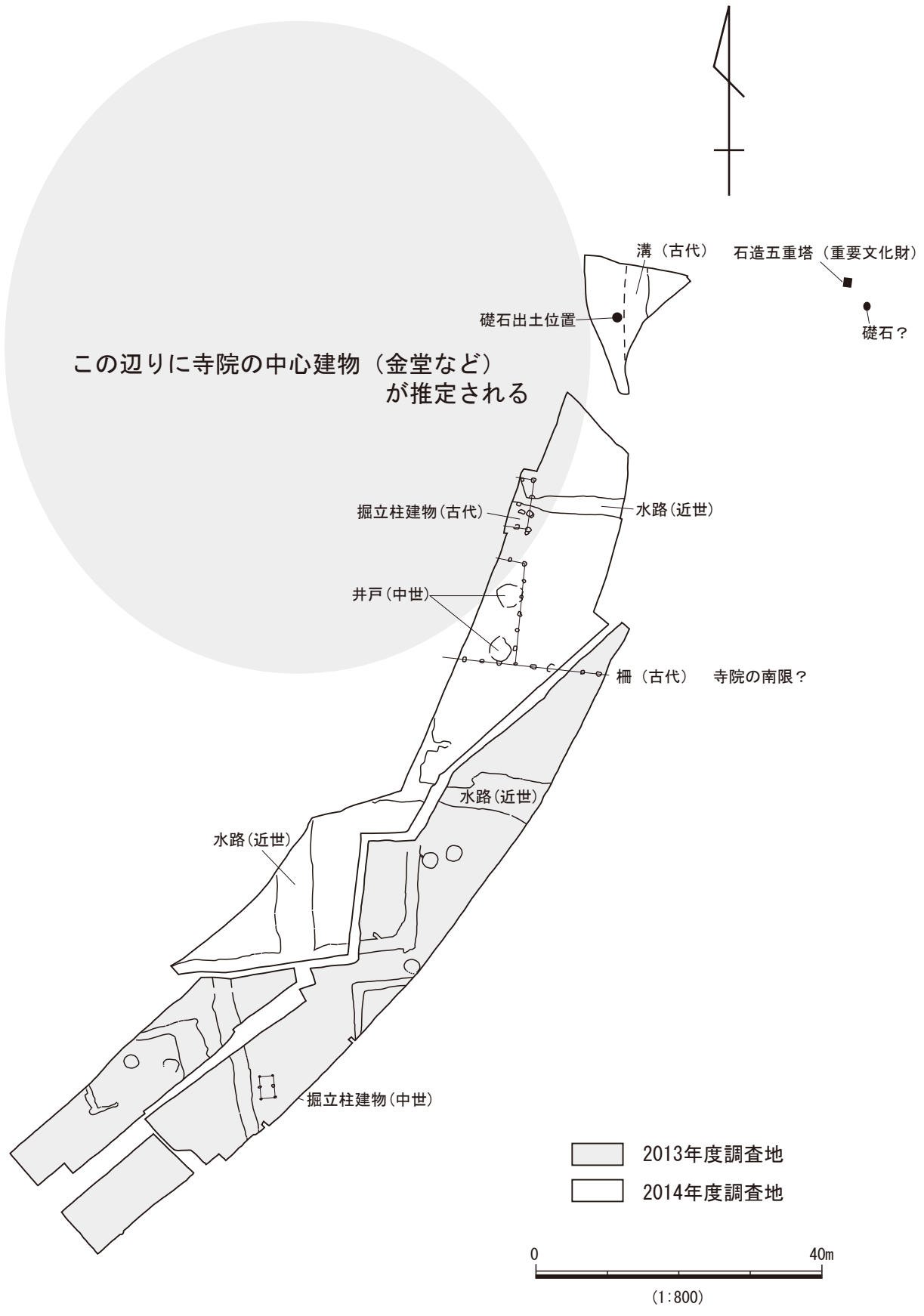
調査では寺院の中心伽藍に葺かれていた瓦が多量に出土しましたが、その分布状況をみると、大半が東西方向の柵よりも北側から出土しています。このことから、東西方向の柵は寺院の南側を区画していた可能性があります。

今回確認された寺院跡は、調査地に隣接して中心伽藍が推定できることから、従来「安養寺廃寺」として知られている南東に 800m 離れた場所に位置する寺院跡とは、別の寺院であったと考えられます。

4. まとめ

今回の調査成果をまとめると、

- ① 新たな古代寺院跡（白鳳～奈良時代）が確認されたこと。
- ② 掘立柱建物や柵・溝など、寺院に付属する施設が確認できたこと。
- ③ 礎石や鴟尾ないし鬼瓦とみられる瓦片などの出土から判断して、今回の調査地周辺に塔や金堂などの伽藍の中心施設が存在していた可能性が高いこと。
- ④ 東西方向の柵列が寺院の南側を画する施設であったと考えられること。
- ⑤ 今回発見された寺院跡は、従来より知られている「安養寺廃寺跡」とは別の寺院跡であり、近接した位置に 2 寺院が存在していたと考えられること。



安養寺遺跡 主要遺構図



安養寺遺跡位置図

0 2km



溝（寺院関連施設） 多量の瓦が出土しました



溝から出土した白鳳期の軒丸瓦



柵（寺院関連施設）

人が立っている所が柵の支柱跡
奥側の横方向が寺院跡の南限の区画か



柵の支柱穴①
支柱の下に瓦を敷いている



柵の支柱穴②
支柱の下に瓦を敷いている



掘立柱建物（寺院関連施設） 白線で囲った部分が柱穴の跡



寺院の堂に使用されたと推測される礎石（県立安土城考古博物館の敷地に仮置き）